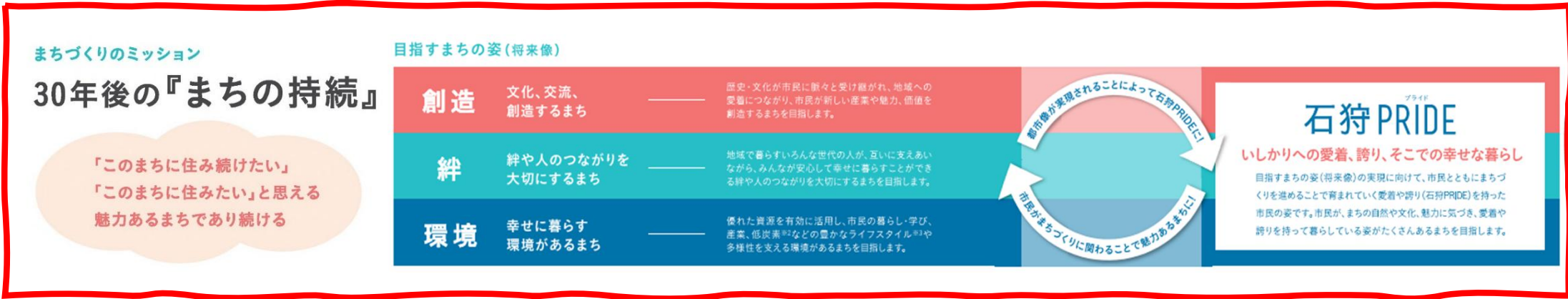


第 6 期石狩市総合計画の骨子案作成に向けて

現計画である第 5 期石狩市総合計画は「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思える魅力あるまちであり続けるため、30年先を見据えて、策定されたものであり、当計画の基本構想で掲げる「創造」・「絆」・「環境」といった目指すまちの姿（将来像）に大きな齟齬がないことから、計画期間を令和 8 年度まで（4 ヶ年度）延長しています。

現計画が掲げる「**目指すまちの姿（将来像）**」は、およそ10年が経過した現在においても通じるものが多いことから、全面改定ではなく、これまでの**「およそ10年間における社会情勢や地域の変化を調査・分析」**しながら、「協働」の理念を念頭に置きつつ、市民との対話を通じて新たな要素を確認し、必要に応じて盛り込みながら第 6 期石狩市総合計画の策定作業を進めております。



基本構想部分である30年後（2045年）を見据えた目指すまちの姿（将来像）は変わらないと想定

数値で見る10年の変化

いしかりって、現在、こんなまち



除雪費：
約8億円(2013)⇒約**13.9**億円(2024) ㄨ
市民1人あたりの除雪費：
約13,500円(2013)⇒約**24,000**円(2024) ㄨ
※主な要因は人件費や物価高騰、降雪量など

石狩湾新港の貿易額：
約1,187億円(2013)⇒約**2,181**億円(2024) ㄨ
※主な要因はLNG火力発電所の供用開始やガンントリークレーン2号機の供用開始など

除雪に使われるお金は約**8億円**
市民一人あたりに約**13,500円**が使われていることとなります。
市の年間降雪量は約6mです。冬季の市民の生活を守るために約8億円が除雪費用として使われています。(2013年度(平成25年度)実績)

市民カレッジの年間開催回数は**47回**
市民カレッジは、年間延べ1,625人が受講しています。(2013年度(平成25年度)実績)

約**28万冊**の図書、約**26万人**が利用する市民図書館があります。
図書館は年間、市の人口の約4倍の利用があります。また、市外からも多数の人が訪れています。(2013年度(平成25年度)実績)

救急車の出動は1日あたり約**6回**
平成25年1～12月の救急出動回数は2,265回。4時間に1回出動していることとなります。(石狩北部地区消防事務組合統計)

全国の市町村では**初**となる「手話条例」があります。
2013年(平成25年)12月、手話を言語として認知し、手話に対する理解の広がりを目指す条例を制定しました。また、市では自治基本条例も制定しており、市民が主役となるまちづくりや、誰もが豊かに暮らす共生社会に取り組んでいます。



石狩湾新港の貿易額は約**1,187億円**道内3位の貿易額
石狩湾新港の輸出入貿易額は、苫小牧港、室蘭港に次ぐ道内3位で、上位品目は、水産品や燃料(石油・天然ガス等)です。(2013年(平成25年)国産税関調査部調査統計課資料)

観光客は約**182万人**
市を訪れる観光客は約182万人。最も多いのは、厚田区戸田記念墓地公園で約40万人(全体の約22%)です。また、ライジング・サン・ロックフェスティバルの入場者数は約6万人です。(2013年度(平成25年度)実績)

観光客：
約182万人(2013)⇒約**227**万人(2024) ㄨ
※主な要因は道の駅石狩「あいろーど厚田」のオープン

1日に、約**1人**生まれて、約**2人**亡くなっています。
年間の出生数は331人。死亡数は610人。1日あたりに換算すると、0.9人生まれ、1.7人が亡くなっています。(2013年度(平成25年度)興動事由別人口動態)

市民1人あたりの借金は約**57万円**一方、貯金は約**5万円**
今後、人口が減少してくると税収も少なくなり、市のお財布や貯金はさらにさみしくなるかもしれません。(2013年度(平成25年度)普通会計決算)

1年間に使われるお金は約**307億円**市民一人あたりに約**51万円**が使われていることとなります。
水道や下水道などの公営事業を除いた市の普通会計(福祉や教育など行政の基本的な経費)の決算は、約307億円です。(2013年度(平成25年度)普通会計決算)

毎年約**2,400人**が市外へ引っ越して、約**2,000人**が新たに石狩市にやってきます。
【転入・転出ベスト3】
1位:札幌市北区 2位:札幌市東区 3位:札幌市手稲区
年代は、転入・転出ともに20代・30代が多く、全体の約5割を占めています。(2013年度(平成25年度)興動事由別人口動態)



町内会加入割合：
約**7割**(2013)⇒約**6割**(2024) ㄨ



町内会に入っている世帯は約**7割**
町内会では、地域住民の安全安心や快適な暮らしを支えています。これまでも、これからも、地域の絆やつながりはとても大切です。(2013年度(平成25年度)3月実績)

年間出生数：331人(2013)⇒**248**人(2024) ㄨ
年間死亡数：610人(2013)⇒**751**人(2024) ㄨ

市民1人あたりの借金：
約57万円(2013)⇒約**51**万円(2024) ㄨ
市民1人あたりの貯金：
約5万円(2013)⇒約**8**万円(2024) ㄨ

1年間に使われるお金：
約307億円(2013)⇒約**373**億円(2024) ㄨ
※主な要因は人件費や物価高騰

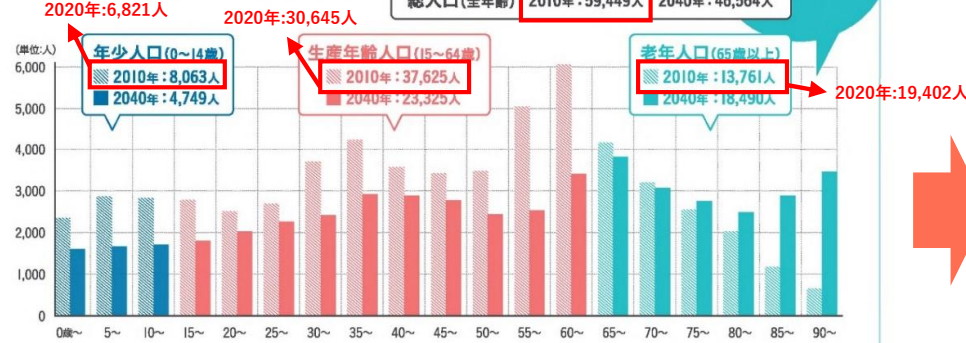
転出数：
約2,400人(2013)⇒**1,744**人(2024) ㄨ
転入数：
約2,000人(2013)⇒**1,766**人(2024) ㄨ

でも、こんなことが心配です

『少子高齢化が進み、まちの人口が減少します』

■5歳階級毎の人口推計

※2040年は国立社会保障・人口問題研究所による2013年3月推計値

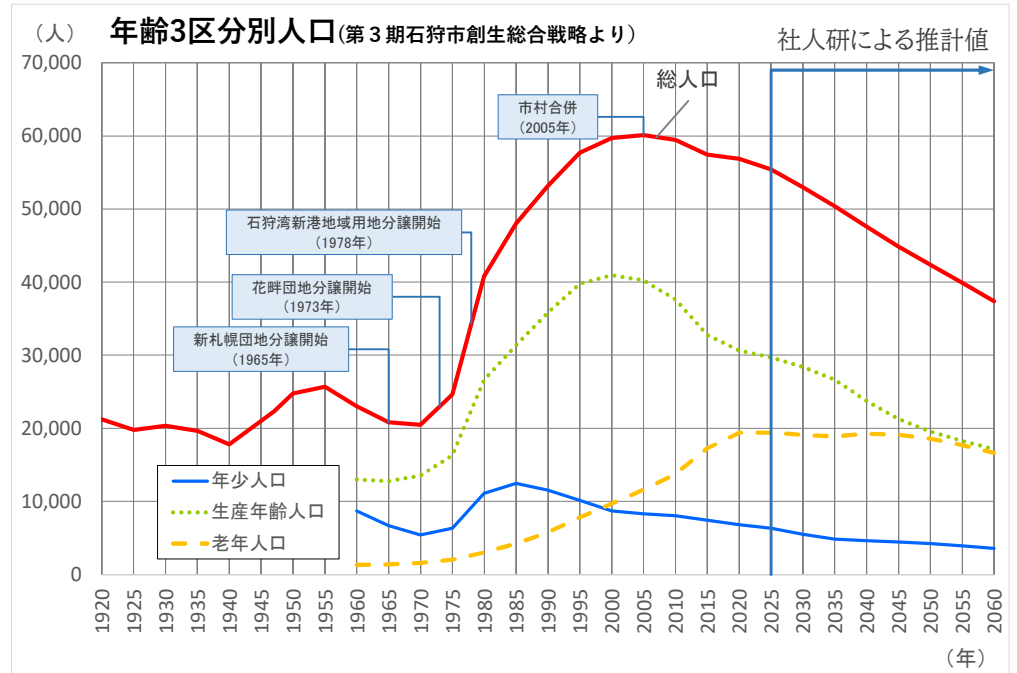


日本全体で少子高齢化や人口減少が大きな問題となっています。これらは石狩市においても同様です。

2040年の推計値では、このままいくと、0~14歳の年少人口(子ども世代)は、2010年から約3,300人(約4割)減少して約4,700人に、15~64歳の生産年齢人口(現役世代)も約14,000人(約4割)減少して約23,000人になると推計されています。また、65歳以上の老年人口(高齢世代)は、約4,700人(約3割)増加して約18,000人、人口に占める割合(高齢化率)も約40%に達すると推計されています。

このように年代構成の大きな変化が見込まれているうえに、まち全体の人口規模も約2割程度縮小することが推計されています。

高齢者が増加
5人に2人は高齢者に



本市の年齢3区分別人口をみると、生産年齢人口については、概ね総人口と同様の推移である一方で、年少人口は昭和60年(1985年)をピークに緩やかに減少し、老年人口は令和7年(2025年)まで増加したのち緩やかに減少する推計となっています。

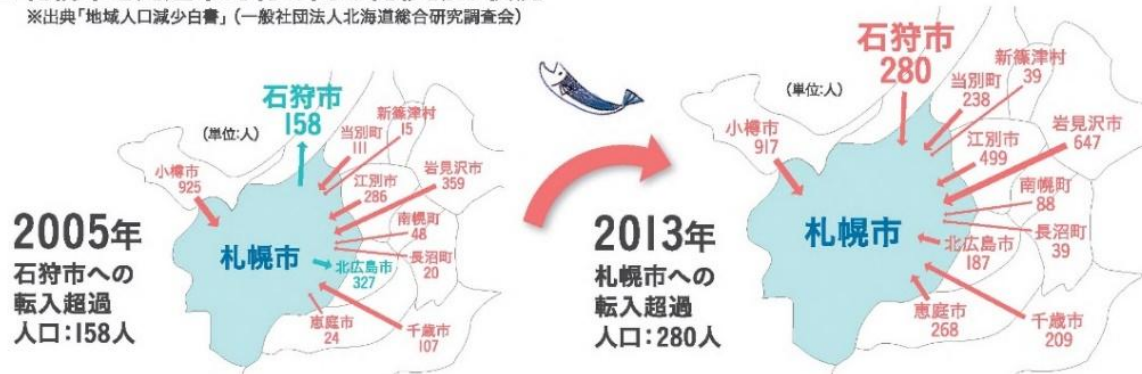
また、年齢3区分別人口構成比をみると、令和2年(2020年)では老年人口割合は34%、生産年齢人口割合は54%でしたが、令和42年(2060年)推計値では老年人口割合が45%(+11%)、生産年齢人口割合は46%(-8%)となっており、将来の人口構成比に大きな変化が生じることが推計されています。

『札幌市への「都心回帰」が強まっています』

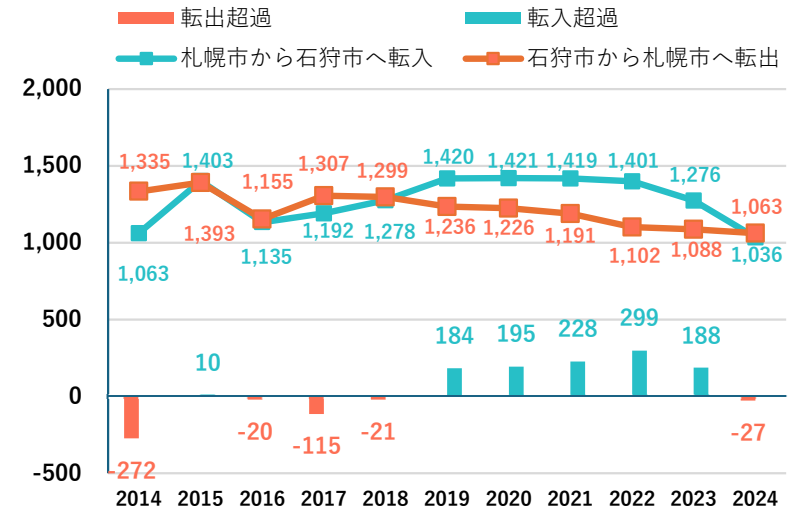
かつてはまちの成長とともに、石狩市への転入人口が札幌市への転出人口を上回る状況が続いていましたが、近年は札幌市への転出人口が上回っています。

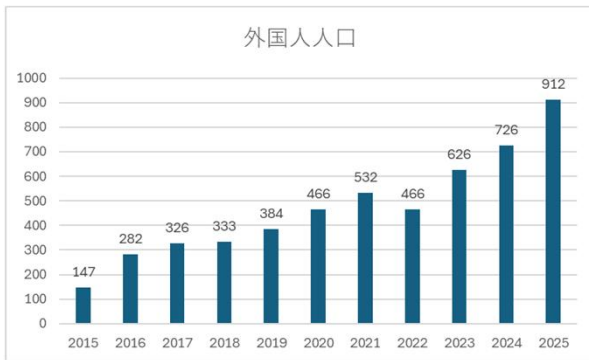
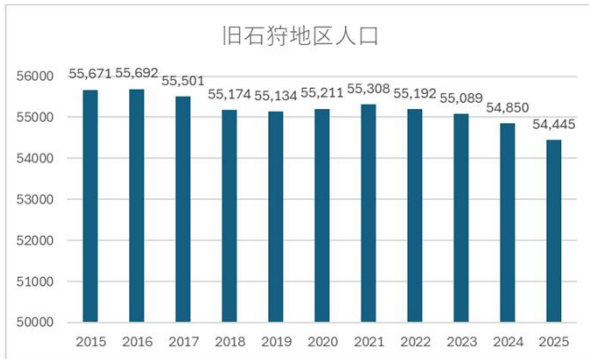
■札幌市と周辺市町村の間の純移動の状況

※出典「地域人口減少白書」(一般社団法人北海道総合研究調査会)

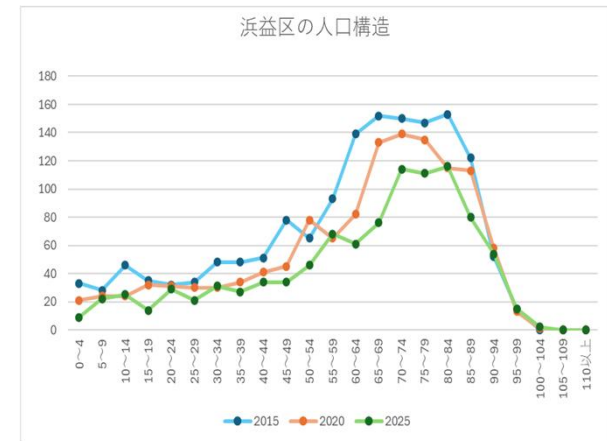
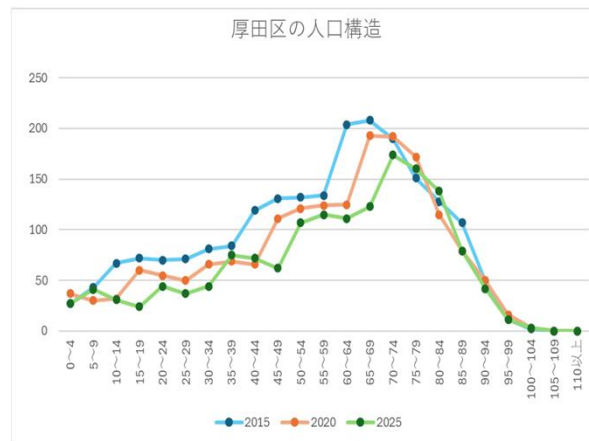


石狩市への転入超過人口の推移





各年4月1日時点の住民記録台帳上の地域別人口推移を見ると、市全体の人口減少が進む中でも、その状況には地域差が見られる。旧石狩地区では人口減少が比較的緩やかである一方、厚田区・浜益区では減少が顕著である。また、近年は外国人人口が増加傾向にあり、人口維持の一因となっている。



各年4月1日時点の住民記録台帳上の地域別における人口構造を見ると、市内全体で高齢化が進行しているものの、その状況には地域差が見られる。旧石狩地区では、厚田区・浜益区と比較して生産年齢人口や年少人口の割合が高く、人口構造の偏りは比較的少ない。一方、厚田区・浜益区では老年人口の割合が高く、出生数の減少と相まって自然減が進みやすい構造となっている。

年表で見る10年の出来事

西暦	市における出来事
2015年	10月 「石狩市まちひとしごと創生総合戦略」を策定
	10月 釜山航路に定期コンテナ船が週3便就航
	11月 マイナンバー通知カードが石狩市内で配達開始
2016年	1月 浜益トンネル開通（延長1.6キロ新トンネル完成総延長4.2キロ）
	4月 浜益区デマンド型交通「浜益厚田間乗合自動車」運行開始
	11月 土地開発公社解散
2017年	4月 市民協働による子どもの居場所づくり市内4団体が子ども食堂開設
	4月 新給食センター稼働
	6月 クマ出没相次ぐ市内ゴルフ場や民家の納屋など
	9月 浜益大雨災害
2018年	1月 ニッポン全国鍋グランプリ2018であき味の会が優秀賞を受賞
	4月 一般財団法人石狩市防災まちづくり協会設立
	4月 道の駅石狩「あいろーど厚田」開業
	5月 石狩市も日本遺産に追加北前船寄港地船主集落
	9月 台風21号接近による暴風被害倒木ビニールハウス倒壊停電など
	9月 北海道胆振東部地震石狩市は震度5弱約2日間の停電や液状化現象も
	10月 「北ガス石狩発電所」の営業運転開始
11月 「増毛山道と濃昼山道」が北海道遺産に認定	
2019年	2月 石狩湾新港火力発電所1号機が営業運転開始
	3月 「とれのさと」が石狩振興局より「いしかり災害時対応ファーマーズ・マーケット」として認定
	6月 北海道電力株式会社と再エネ発電事業等に関する協定を締結
2020年	2月 鈴木知事が緊急事態宣言「週末は外出控えて」新型コロナ
	3月 スーパーホテル石狩（市内初のビジネスホテル）オープン
	3月 イオン北海道大型物流施設を石狩湾新港に新築
	4月 厚田学園開校
	4月 全国に緊急事態宣言北海道は「特定警戒」新型コロナ
	7月 石狩秋の三大祭り中止
	12月 第4回市議会定例会一般質問において「ゼロカーボンシティ」を宣言
2021年	4月 花川中央地域包括支援センターを開設
	4月 石狩湾新港地域にコストコホールセール石狩倉庫店オープン
	5月 新型コロナワクチン集団接種開始
	7月 石狩三大秋祭り2年連続中止

西暦	市における出来事	
2022年	2月 市や商工会議所が洋上風力発電の誘致を目指す「石狩市沖の有望な区域への早期選定と石狩湾新港の拠点港化を進める期成会」を設立	
	4月 厚田区浜益区に集落支援員着任	
	4月 厚田5施設に電力供給する「厚田マイクログリッドシステム」が本稼働	
	4月 地域脱炭素の先進的な取組を行う地域として国が選ぶ「脱炭素先行地域（第1回）」に選定される	
	4月 「浜益特定地域づくり事業協同組合」が、道内5件目となる「特定地域づくり事業協同組合」として認定される	
	9月 ニトリホールディングスの物流拠点「石狩DC」稼働開始	
	10月 ふれあいの杜子ども館開館	
	10月 オンデマンド交通「いつモ」実証運行スタート（通勤オンデマンド）	
	11月 オンデマンド交通「いつモ」実証運行スタート（市内オンデマンド）	
	12月 京セラコミュニケーションシステム株式会社が石狩湾新港地域内に再生可能エネルギー100%で運営するゼロエミッション・データセンター建設着工	
	2023年	5月 石狩市沖が再エネ海域利用法に基づく「有望な区域」に整理
		9月 石狩市浜益区にヒグマ注意報が発出される（9月29日～11月28日）
10月 石狩市農業協同組合と札幌市農業協同組合が合併し「札幌市農業協同組合」が発足		
10月 石狩湾新港地域において木質系バイオマス発電所の起工式が開催		
2024年	10月 石狩湾新港洋上風力の風車14基組み立てが終了	
	12月 「石狩市手話に関する基本条例」制定10周年記念事業「手話でつながるいしかり」開催	
	1月 石狩湾新港港湾区域内で洋上風力発電14基が商用運転開始	
2025年	3月 石狩鍋が文化庁が認定する100年フードに選ばれる	
	4月 障がいの有無に関係なく暮らしやすいまちづくりを目指す、「石狩市障がい者情報・コミュニケーション条例」を施行	
	4月 オンデマンド交通いつモの運行を通年で開始	
	4月 市内風力発電で作られた電気を小中学校や公共施設に供給し地産地活	
	6月 石狩湾新港開港30周年を迎える	
	10月 再生可能エネルギー100%で運営する全国初のデータセンターが開所	
	4月 石狩市こどもの権利条例	
4月 パートナーシップ宣誓制度受付開始		
2025年	9月 浜益ふるさと祭り 会場付近でのヒグマ出没を受けて中止	
	10月 たびのホテル石狩開業	
	12月 花川通を延伸し供用開始	
	12月 本町地区と花川地区を結ぶ予約制バス「本町花川線」の運行開始	

5つの戦略目標の見直し検討

基本構想を実現するための基本計画は5つの戦略目標により構成されている

基本構想が変わらない ⇒ 5つの戦略目標も基本的には変わらない？

5つの戦略目標

市民の「健康」と「結束」でいしかりを動かす

30年後の目指すまちの姿(将来像)を実現するためには、まちづくりの主役である市民一人ひとりの健康が何よりも大切です。さらに、市民が結束し、自ら進んで取り組むことが総合計画を動かしていくことにつながります。

そのため、市民の理解・共有を重視し、特に重点的に市民と協働を進めていく5つの戦略目標を掲げます。

この5つの戦略目標は、これからのいしかりが取り組むまちづくりの優先事項や戦略性を示すものであり、市民の結束なしでは決して進まないものです。

- 戦略目標 1 新現役世代[※]がいしかりで活躍する
- 戦略目標 2 いしかりの子育て力をさらに発揮する
- 戦略目標 3 いしかりの資源からモノやしごとを創り出す
- 戦略目標 4 いろんないしかりの顔をつくる
- 戦略目標 5 いしかりが誇る人や文化を育てる

※ 新現役世代：審議会(分科会)の中で、知識や技能、経験を有する「新現役世代」と呼ぶこととした

現在の5つの戦略目標は、5期計画策定時のまちづくりディスカッションや高校生ワークショップ、また審議会での議論の中ででた多くの市民意見をもとに、いしかりが目指すまちの姿の実現のため、掲げたものです



策定後の10年間で5つの戦略目標のいずれにも分類しがたい新たな課題が…

「AIを始めとするデジタル技術の活用」
「様々な自然災害に対応する防災・減災まちづくり」
「持続可能な公共交通の確保」 etc



これら5つの戦略目標については、数値の表わす社会情勢が、計画策定当初の情勢と齟齬がないこと等を確認しながら作業を行った結果、10年を経た現在においても、今後のまちづくりを進めるうえで引き続き重要な目標であることから、基本的に5つの戦略目標は維持しつつ、各目標の背景や目指す方向性については10年間の変化を捉えた内容に更新していくことが必要

これまでの10年の変化や今後の目指すまちの姿(将来像)の実現には**変化する社会情勢への対応**も必要であることから**6本目の目標「時代にあったまちの持続」が必要と仮定**し、意見聴取等を実施

計画策定のための意見聴取等の実施状況

●第5期石狩市総合計画に関する意見聴取

アンケート回答件数：571件（内訳：無作為抽出498件、チラシ配架73件）

策定から約10年経過した現行計画の内容に基づき、社会変化・市民ニーズの傾向を把握するために実施しました。

意見聴取	実施日	手法	対象
①第5期石狩市総合計画に対する市民意識調査	2025年12月26日(金) ～2026年1月31日(土)	webアンケートによる意見聴取 ※石狩市在住の15歳以上3,000人を無作為抽出およびチラシ配架	全市民

●第6期石狩市総合計画に関する意見聴取

アンケート回答件数：1,256件（内訳：第6期市民意見調査34件、小中学校への意見聴取1,222件）

意見聴取参加者：314名（内訳：地産地活博129名、はたちのつどい155名、ミライゆる会議約30名）

新しく策定する総合計画への新たな視点や基本計画の内容に関する基礎データとしての市民意見の傾向を把握するために実施しました。

意見聴取	実施日	手法	対象
②第2回いしかり地産地活博 会場：こども未来館あいぼーと	2025年11月29日(日)	意見聴取パネルを使用したオープンハウス形式の意見聴取	来場者
③はたちのつどい 会場：花川北コミュニティセンター	2026年1月11日(日)	意見聴取パネルを使用したオープンハウス形式の意見聴取	来場者
④第6期石狩市総合計画の検討に向けた市民意識調査 「あなたが思う石狩市の魅力と目指したいまちの姿」調査	2026年1月27日(火) ～2月28日(土)	webアンケートによる意見聴取	全市民
⑤市内小中学校への意見聴取	2026年2月2日(月) ～2月15日(日)	webアンケートによる意見聴取	児童・生徒
⑥石狩ミライゆる会議 会場：花川北コミュニティセンター	2026年2月18日(水)	フューチャーセッションを介した意見聴取	参加者

●第6期石狩市総合計画庁内研修ワークショップ

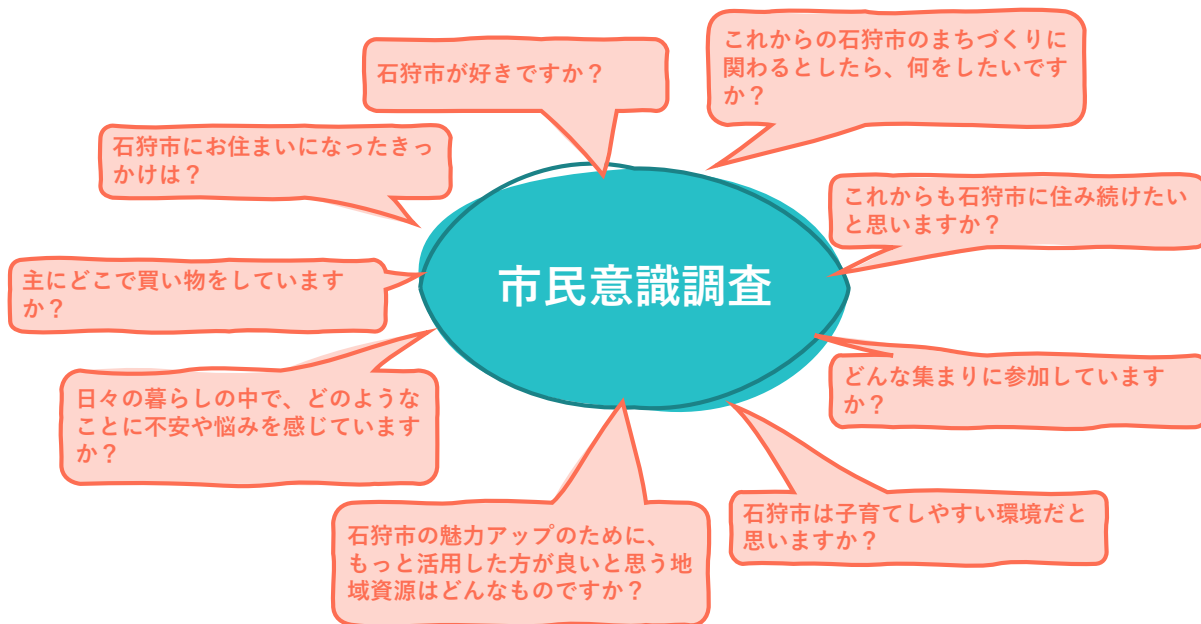
庁内WS：3回開催延べ42名

現行計画策定からこれまでの社会や地域の変化、新しく策定する総合計画の基本計画の内容に関する職員の意見聴取のために実施しました。

意見聴取	実施日	手法	対象
⑦庁内研修ワークショップ	第1回：2025年11月20日(木) 第2回：2025年12月19日(金) 第3回：2026年1月28日(水)	グループワークによる意見聴取	市職員 40歳未満を対象

①第5期石狩市総合計画に対する市民意識調査

毎年、自治基本条例第16条第3項の規定に基づき、市民意識を把握するための調査を実施しており、市民が総合計画に関わることで、計画自体が進化していく仕組みを大切にしていることから、まちづくりへの参加意識や戦略目標への関心度、進捗度評価に繋がるような設問・選択肢を中心に設定しております。



●意見の概要

- ・海や山などの豊かな自然環境がありながら札幌へのアクセスが良い点など、石狩市が持つ自然と都市のバランスを高く評価する声が多くあげられました
- ・除雪体制、子育て支援といった行政サービスの充実の意見も多くあげられました
- ・将来に向けた課題として多い視点は交通と雪です。バスの減便や運賃の高さなど公共交通機関の不便さが指摘されており、車が運転できなくなった際の生活や通院への不安が大きいです。また、高齢化に伴う雪かきの負担増など将来を見据えた生活インフラの維持・整備が求められています。

ご意見を聞かせてください！

石狩市では総合計画の見直しや策定の基礎資料とさせていただきますため、市の現状やまちづくりなどについて、市民の皆様のご意見をお伺いします。





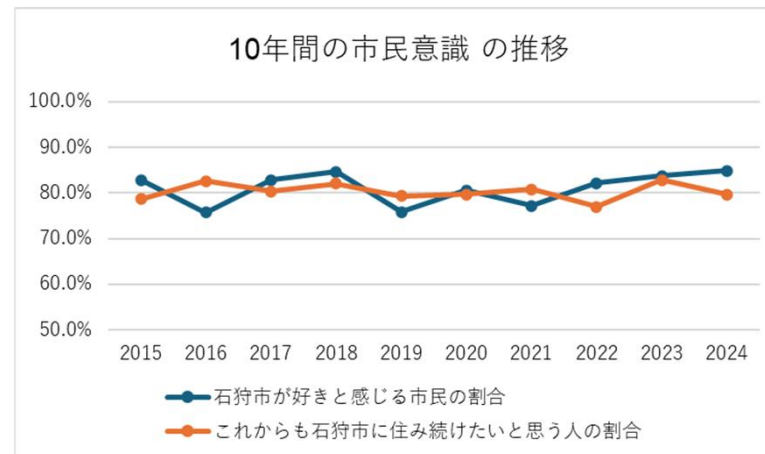
対象者：
石狩市民の皆様
(年齢制限なし)

回答期限：
2026年1月31日
まで

<https://forms.office.com/r/yTPv2fWzq3>

▲回答は上の二次元コードかURLから▲

・本調査は第5期石狩市総合計画に基づき実施するものです。
 ・お名前やご連絡先をご記入頂く必要はなく、統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。
 ・3,000人無作為抽出のアンケートを随時行っており、内容は同じものとなっております。
 ・アンケート用紙での回答をご希望の場合、下記のお問い合わせ先にご連絡をお願いします。
 (お問合せ) 企画政策部 企画課 企画担当
 電話：0133-72-3161 FAX：0133-74-5561 メール：kkaku@city.shikari.hokkaido.jp



②第2回いしかり地産地活博【129名】

再生可能エネルギーを活用するまちづくりをテーマにしたイベントでパネルを展示し、イベント参加もしくはあいぽーとに遊びに来ている子どもたち（小学生～高校生）とその家族に6つの目標に関して大事なものにシール投票し、その理由について伺いました。また、石狩の好きなおところやこうなったらいいなというアイデアを伺いました。

●意見の概要

- ・安全で快適に暮らせるまちに対して、最も多くの関心が集まり、事故や犯罪、災害のない平和な暮らしを求める声が目立ちました。また、子育て・子どもが育つ環境へも関心が高く、天候に関わらず多様な年齢の子どもが安全に遊べる大型の公園や室内施設を望む意見がありました
- ・他に、バスや鉄道など交通利便性の向上や、商業施設・エンタメ施設の誘致による買い物のしやすさがあげられており、自然を守りつつ活気ある便利なまちへの発展が望まれていました
- ・あいぽーとや公園等の遊び場、豊かな自然や食、人の優しさを石狩の好きなおところとしてあげる声が多数ありました



③はたちのつどい【155名】

石狩市に在住、または生まれ育った20歳の若者から、式の前後の時間を利用して、6つの目標に関して大事なものにシール投票し、その理由について伺いました。また石狩市まちづくりへのメッセージを伺いました。

●意見の概要

- ・地産地活博と同様に、子育て、安全・快適なまちへの関心が圧倒的多数を占めました
- ・特に生活に直結する公共交通（バス）の利便性向上・終便の延長を求める切実な声が非常に多く寄せられました
- ・将来自分が親になったときに子育てしやすいまちであってほしいという声や、ライジングサンなどのイベントや食の魅力を発信し、もっと石狩を誇れる、自慢できるまちにしてほしいといった、シビックプライドの醸成を求める意見も目立ちました



④第6期石狩市総合計画の検討に向けた 市民意識調査【34件】

石狩市の魅力や目指したいまちの姿などについてWebで伺いました。

●意見の概要

- ・地域資源からの仕事創出や持続可能な地域づくりに多くの関心が集まりました
- ・豊かな自然や独自の歴史、食文化など石狩の資源を再評価し、観光や新しい仕事の創出につなげ、地域経済の好循環や地元への誇りを生み出したいという声が多くありました
- ・一方で、人口減少や高齢化への危機感から、近隣市町村との連携や、軌道系交通網整備を求める声が多数ありました
- ・自動運転などの最先端技術導入によるインフラ維持や、各地域の実情に応じたまちづくりを求める声もありました



⑤市内小中学校への意見聴取【1,222件】

市内小中学生へ「みらいの石狩について考えよう」をテーマに総合計画の内容や未来の石狩についてのアイデアを伺いました。

●意見の概要

- ・安心・安全に過ごせて暮らしやすいまちへの関心が圧倒的で、交通事故や犯罪のない平和な生活の維持への声が大きいです
- ・石狩の好きなどころとしては、海や川などの豊かな自然や石狩鍋や鮭などの美味しい食べ物、地域の人々の優しさが多く挙げられました
- ・一方で、遊び場と利便性の向上へのニーズが目立ちました。他、冬でも遊べる室内施設や大きな公園、大型ショッピングモールや飲食店の誘致を望む声が多数ありました
- ・地下鉄や電車の開通といった交通網の改善、通学路の安全を守る早く丁寧な除雪を求める意見も特徴的です

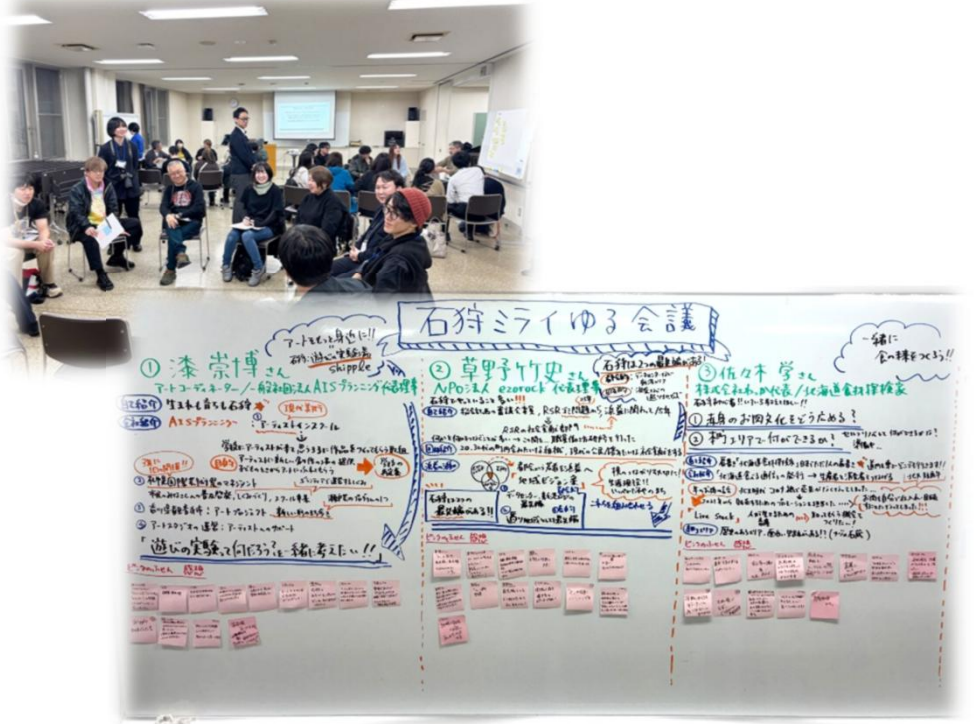


⑥石狩ミライゆる会議【約30名】

(株)WREERA主催の定期イベントを番外編として開催しました。石狩市の地域住民が一堂に会し、お互いの地域の魅力や課題を共有し、新たな協働プロジェクトを生み出す場を創出することを目的としたイベントの中で、登壇者を含め、参加者のみなさんと交流会の中で意見交換をしました。

●意見の概要

- ・石狩の持つ都市と田舎の両面の個性を掛け合わせた地域づくりへの取組アイデアが多く生まれました
- ・3名の登壇者の話題提供から、教育や暮らしにアートを取り入れ、子どもの感受性を育みながらまちに新たな風景を創出するアイデアに共感が集まったり、本町エリアの歴史や夕陽を活かした体験型観光・滞在拠点の創出のアイデアがありました
- ・また、ボランティア活動や地域間(花川、厚田、浜益など)の子どもや大人の交流を通じて、関係人口を増やし、デジタル化が進む中でも人の役割やあたたかいコミュニティを築いていくことを意見交換しました



⑦庁内研修ワークショップ【3回開催延べ42名】

30年後の市政の中心を担う若手・中堅職員を対象に、①総合計画が描く未来への理解を深めること、②部署を越えた業務内容や課題感の共有による庁内の連携強化、③職員のリアルな思いや姿勢を総合計画へ反映させることを目的として、全3回のワークショップを開催しました。

●意見の概要

・日々の業務においては、市民との関わりや感謝の言葉がやりがいとなる一方、慢性的な人手不足や庁内の縦割り体制への課題感があげられました

・過去10年の石狩の変化として、再生可能エネルギーの推進や大型商業施設進出による発展が評価される半面、気候変動や災害への脆弱性も指摘されました

・石狩の未来に向けて、人口減少が進む中、AIやDXを活用した行政サービスの効率化が不可欠だが、デジタル化が進むからこそ、地域コミュニティや世代間のつながりがより重要になること、また、シニア層を地域の担い手と捉える仕組みづくり、市民がまちづくりを自分ごととして捉えシビックプライドを育むこと、そして若者が定住したくなる魅力的な仕事と環境創出が重要であるとの意見がありました。



6本の戦略目標を補足するための基本的方向（案）の検討

